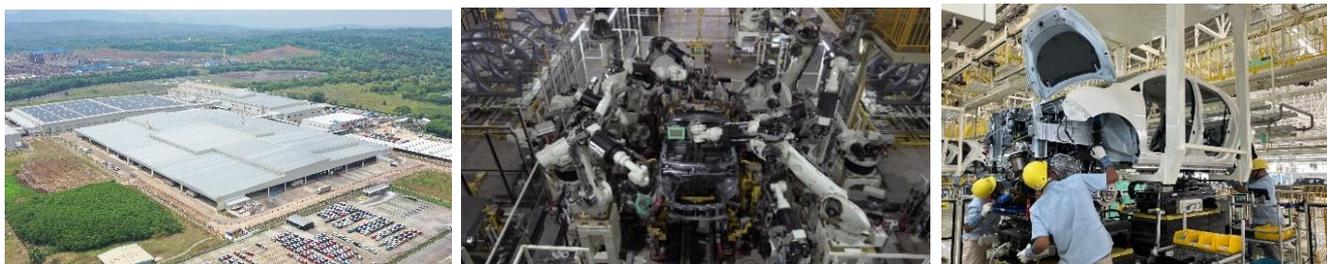


ダイハツ、インドネシアにおいて新車両工場が稼働開始

～環境面と生産効率面における最新技術を導入し、ダイハツグループとして競争力強化を加速～



ダイハツ工業株式会社(以下、ダイハツ)のインドネシア現地法人であるアストラ・ダイハツ・モーター社(以下、ADM)は、環境面と生産効率面における最新技術を導入したカラワン車両工場 第2ラインの本格稼働を開始し、本日開所式を執り行いました。

今回、稼働開始から27年経過したADMスunter車両工場 第1ラインの老朽化、および今後のカーボンニュートラルへの対応を見据え、カラワン車両工場 第2ラインへのリニューアルを2023年2月より行ってきました。コンセプトは、ダイハツのモノづくりの考え方である「SSC(シンプル・スリム・コンパクト)」をさらに進化させた「E-SSC」^{※1}。2022年にリファインした京都(大山崎)工場で採用した革新技术を中心に、環境面や生産効率面で最新の生産技術をボデー・塗装・組立の各工程で導入することで、競争力を高めるとともに、工場建屋屋根への太陽光パネル設置なども含め、年間約30%のCO₂排出量を削減します。

2013年に稼働を開始したカラワン車両工場は、トヨタグループの車両生産拠点として、これまでインドネシアをはじめ、世界各国のお客様に累計約230万台の車両をお届けしてきました。今回のリニューアルによって、カラワン車両工場は年間36万台規模の生産能力を有する、ダイハツグループの海外拠点として最大規模の車両生産工場となります。

ダイハツは、今回培ったノウハウや技術を国内外の工場へさらに展開し、ダイハツグループの競争力強化と生産カーボンニュートラルへの取組みを加速させるとともに、インドネシアをはじめとした各地域のお客様の生活に寄り添った良品廉価なクルマづくりを磨き上げることで、各地域の自動車産業の発展、および人材育成に貢献してまいります。

※1 E-SSCの“E”はEvolutionの略。

＜新工場（カラワン車両工場第2ライン）概要＞

所在地	西ジャワ州カラワン スルヤチプタ工業団地内
敷地面積	224,529㎡（カラワン車両工場全体：940,012㎡）
建屋面積	71,953㎡（カラワン車両工場全体：264,085㎡）
投資額	約2兆9,000億ルピア（約267億円） ※1ルピア=0.0092円（2025年2月20日時点）で換算
稼働開始	2024年12月
生産能力	14万台/年（ADM全体：53万台/年（変更無し））
従業員数	約700名（2024年12月時点）
リニューアル工程	ボデー(溶接)、塗装、組立等
生産車種	ダイハツ アイラ/トヨタ アギア/トヨタ ウィーゴ（2025年2月時点）

＜新工場の主な特長＞

1. 全体コンセプト

- ・高い生産性と高品質を実現しながら優れた環境性能を有し、インドネシアにおけるカーボンニュートラルに貢献する、現地最適な工場を設立。
- ・これまでダイハツが進めてきた現地雇用、現地人材育成の成果ともいえる、ADM現地生産技術スタッフ主体による新工場立上げ。ダイハツ生産技術スタッフの支援は、カラワン車両工場 第1ライン建設時から60%減。
- ・建屋屋根へ3,000kW分の太陽光パネル約5,100枚の敷設^{※2}、および各工程での新技術導入等により、スunter車両工場 第1ラインにおけるCO₂排出量比30%削減を見込むとともに、将来的な電動車生産を見据えた新設備を導入。
- ・従業員とトラックを含む車両との動線を分離することにより、安全を担保しつつ部品物流を軸とした効率的な工場レイアウト。

※2 カラワン車両工場第1ライン、第2ラインにおける太陽光パネル敷設数の合計。

2. ボデー(溶接)工程

- ・スポット溶接用ロボットの導入数を増やすことで、自動化率を向上させ、品質向上と省人を両立。さらに、ロボットの集約配置や高速化、一台で複数の溶接が可能な最新のロボットを導入することで、ダイハツの工場において最小の工程数を実現。

3. 塗装工程

- ・京都（大山崎）工場で採用した環境、効率化技術を全面的に展開。
- ・段ボールフィルターを用いたドライブース化や、静電誘導を用いた塗着効率の高いマシンの採用などを実施。また、熱源工程を3階フロアに集約することで、効率的な熱マネジメントを実現。

4. 組立工程・物流

- ・組立ラインの周囲4方向から部品を供給できるレイアウトを実現し、部品物流の効率化を実施。物流トラックの動線を確保するとともに、部品置き場とラインの近接化により、運搬距離を短縮。
- ・人間工学に基づいた「人にやさしい」作業工程を実現。京都(大山崎)工場と同様、重量のある大型部品は車両を停止状態で搭載する方法を採用することで、作業者の負荷軽減と品質向上を両立。
- ・部品受入れスペースの外壁を一部取り払う「ウォールレス」レイアウトにより、自然換気を行うことで工場内の空気循環を改善。空調設備の利用率を低減することで、CO₂排出量削減にも寄与。
- ・将来的な電動車生産を見据え、バッテリーなどの重量部品にも対応可能な搬送装置を導入。

<ADM概要>

正式名称	P T A s t r a D a i h a t s u M o t o r
所在地	ジャカルタ特別区 スンター地区
従業員数	10,367名(2025年1月時点)
代表者	京田 靖 取締役社長
設立年	1992年
生産開始年	1992年1月
生産能力	53万台/年
生産台数(2023年度)	467,126台(前年同期比:85.2%) ダイハツ車:181,568台(88%) /OEM車(トヨタ、マツダ):285,558台(83.5%)
生産台数(2024年1-12月)	428,460台(前年同期比:85.0%)
販売台数(2023年度)	185,688台(前年同期比:93.2%)
販売台数(2024年1-12月)	168,263台(前年同期比:86.7%)
累計生産台数	約800万台
売上高	非開示
出資形態	ダイハツ工業:61.76% アストラ・インターナショナル:31.87% 豊田通商:6.37%

以上